

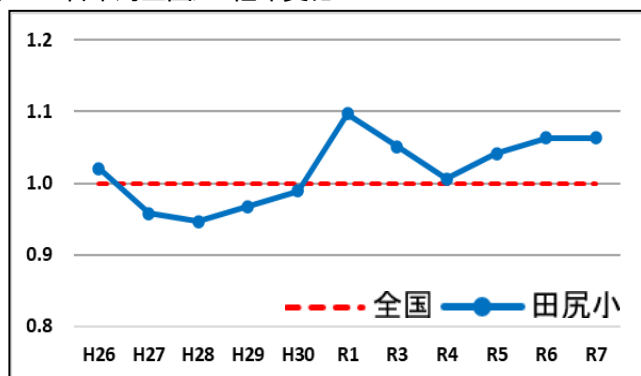
□ 結果概要 全国平均を上回った

全体の平均正答率は全国平均を4.2ポイント上回っており、全般的に定着が図られている。また、全14問のうち正答数が6問以下の「学力課題のある児童」の割合は全国平均より4.7ポイント少ない。

一方、全国平均を下回る設問は2問あり、特に「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること（話すこと・聞くこと）」に課題が見られた。

□ 正答率の状況（全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率）

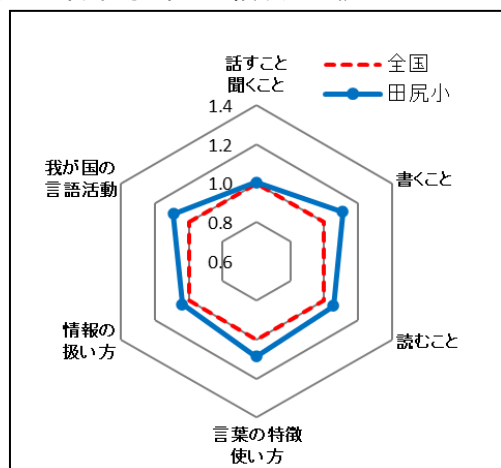
◇ 正答率対全国比 経年変化



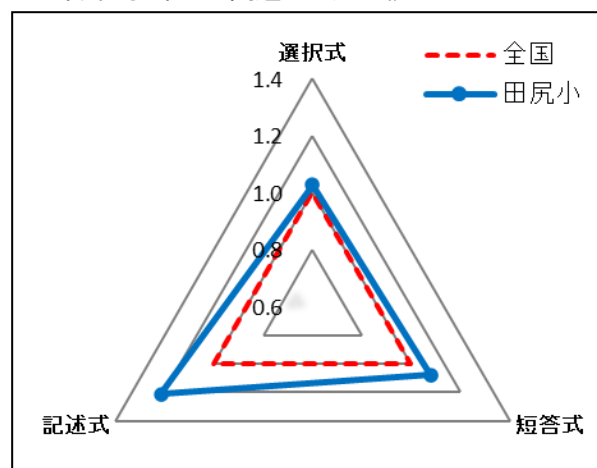
「言葉の特徴・使い方」の正答率（対全国比）は5年連続で全国平均を上回った。また、「書くこと」の正答率（対全国比）は3年連続で上昇している。一方、「話すこと・聞くこと」の正答率（対全国比）は3年間あまり変化が見られない。

「記述式」問題の正答率は（対全国比）は3年連続で上昇している。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○書くこと（思判表） 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題について

本問の正答率が75.4%であり、全国平均を14.1ポイント上回った。また、本問は「記述式」問題であるにもかかわらず、無回答率は0%であった。多くの児童が、条件の内容を正確に把握し、条件に合わせて資料の中から言葉や文を引用するなどして、書くことができている。誤答した児童に対しては、「考えの形成」に至るまでの学習過程（「情報の収集」、「構成の検討」）でつまづいている可能性も踏まえ、授業改善や個別指導を行っていくことが重要である。

○言葉の特徴や使い方（知技） 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題について

漢字の書き取り問題は2問出題され、平均正答率が83.6%であり、全国平均を6.8ポイント上回った。多くの児童が、漢字を文や文章の中で使おうとする習慣が身に付いている。漢字を国語だけでなく、他教科等の学習や日常の活動においても指導してきた成果である。

●話すこと・聞くこと（思判表） 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題について

本問の正答率が68.9%であり、全国平均を2.9ポイント下回ったことから、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることに課題があると考えられる。今後、学習指導に当たっては、インタビューなどをする際に、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにどのような情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にさせることが重要である。

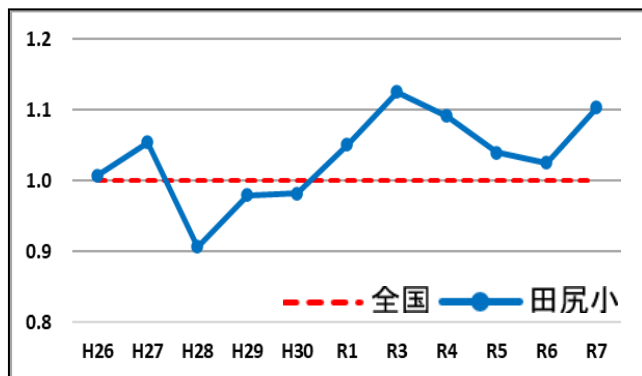
□ 結果概要 全国平均を大きく上回った

全体の平均正答率は全国平均を6.0ポイント上回っており、全国平均を大きく下回る（－5ポイント）設問もなく、全般的に定着が図られている。また、全16問のうち正答数が5問以下の「学力課題のある児童」の割合は全国平均より5.3ポイント少ない。

一方、全国平均を下回る設問は2問あり、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと」と「はかりの目盛りを読むこと（測定）」に課題が見られた。

□ 正答率の状況（全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率）

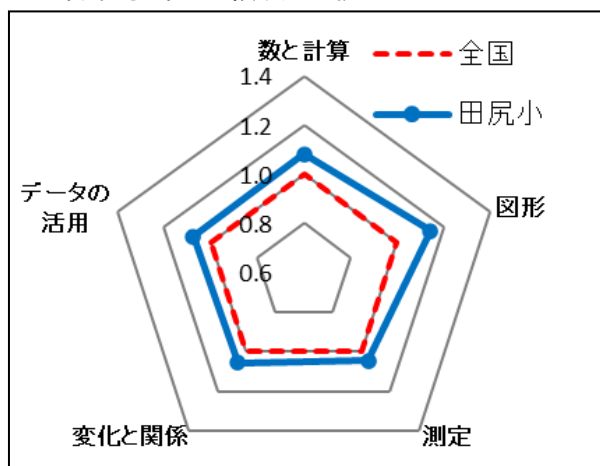
◇ 正答率対全国比 経年変化



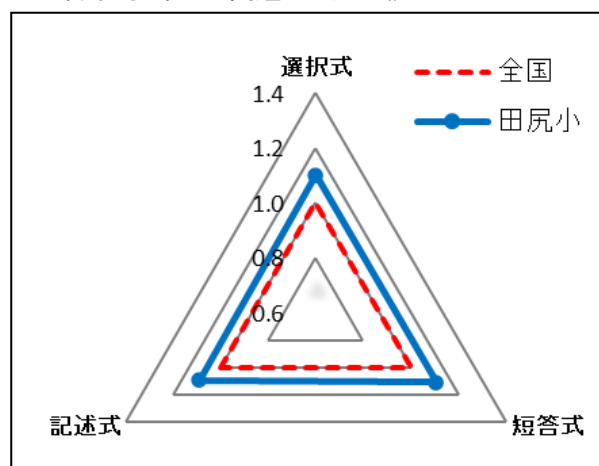
「数と計算」の正答率（対全国比）は5年連続で全国平均を上回った。また、「図形」「データの活用」の正答率（対全国比）は直近3年間で最も高い。

「記述式」問題の正答率は（対全国比）は3年連続で上昇している。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○**数と計算（知技）**数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が47.5%であり、全国平均を12.5ポイント上回った。分数の意味や表し方を理解し、数直線上に示された分数を読み取ることができている。今後も、指導に当たっては、分数の意味や表し方について具体物や図、数直線を用いて実感を伴って理解させていくことが重要である。

○**図形（知技）**台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が62.3%であり、全国平均を12.1ポイント上回った。台形の定義と性質について理解し、辺の位置関係に着目して図形を弁別することができている。今後も、四角形の学習では、図形を構成する要素とその関係に着目して仲間分けをする活動を通して、台形や平行四辺形、ひし形、長方形、正方形を統合的に捉えることが重要である。

●**変化と関係 等(思判表)**伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が80.3%であり、全国平均を2.5ポイント下回ったことから、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことに課題があると考えられる。今後、学習指導に当たっては、日常生活で出会う、伴って変わる二つの数量の具体的な事象を表で表す取り組みをしていくことが重要である。

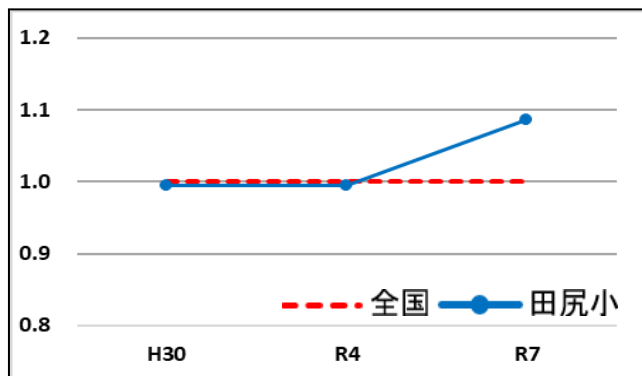
□ 結果概要 全国平均を上回った

全体の平均正答率は全国平均を4.9ポイント上回っており、全国平均を大きく下回る（－5ポイント）設問もなく、全般的に定着が図られている。また、全17問のうち正答数が6問以下の「学力課題のある児童」の割合は全国平均より15.1ポイント少ない。

一方、全国平均を下回る設問は4問あり、「電気を通す」という金属共通の性質や、水の蒸発・結露など理科に関する基礎的な知識の習得に課題が見られた。

□ 正答率の状況（全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率）

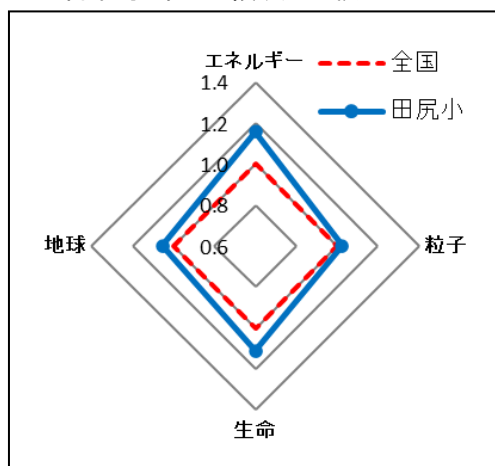
◇ 正答率対全国比 経年変化



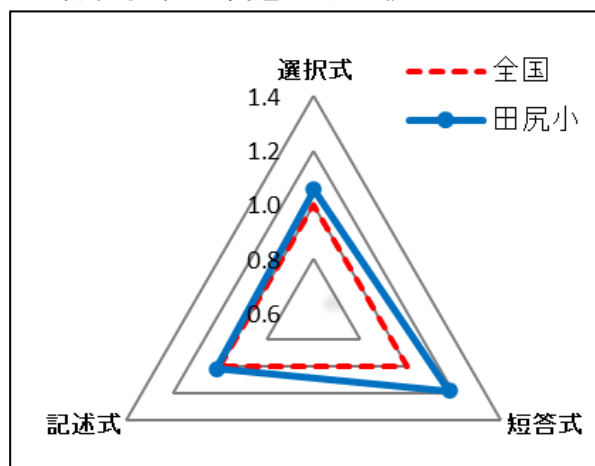
全ての領域において、正答率（対全国比）は前回（令和4年度）を上回った。特に、前回課題であった「エネルギー」「生命」の領域において、大幅な改善が見られた。

「記述式」問題の正答率は（対全国比）は前回（令和4年度）を上回った。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等（○：成果 ●：課題）

○エネルギー（知技）乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題について

平均正答率が73.8%であり、全国平均を18.7ポイント上回った。多くの児童が、電磁石の強さを最も強くする乾電池のつなぎ方が直列つなぎであることと、乾電池の電極に関する知識を身に付けている。今後も、学習指導に当たっては、ショート回路や直列つなぎの電池のうち1個を逆向きにした回路など、危険なためやっつけはいいけないつなぎ方も理解させることが重要である。ICT機器を活用すれば、回路を安全に組み立てることができる。

○生命（知技）ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題について

本問の平均正答率が85.2%であり、全国平均を14.5ポイント上回った。多くの児童が、ヘチマの花のめしべとおしべのそれぞれの位置と、「花粉がめしべの先につくこと」を受粉と正しく捉えている。今後も、学習指導に当たっては、観察や実験したことについて、図に整理させたり、関連する用語にまとめさせたりすることが重要である。

●エネルギー・粒子（知技）身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題について

本問の正答率が9.8%であり、全国平均を0.8ポイント下回ったことから、「電気を通す」という金属共通の性質に関する基礎的な知識の習得に課題があると考えられる。今後、学習指導に当たっては、自然の事物・現象と知識を関連付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めさせることが重要である。